

徒手療法家のための疑似発達障害ケアプロジェクト

項目	講師	小項目	内 容
1	総論	吉田優也	統合療法の可能性 発達障害は生まれつきの脳機能障害とされていますが、種々の徒手の介入によりなぜ成果が見られることがあるのでしょうか？ それは、脳機能の障害のみではなく神経発達に遅れを含んでいるからでしょう。当協会では遅れの原因に徒手の介入や栄養の改善が成長を促す可能性のある発達障害を『疑似発達障害』と定義し、本講義では手技の発達のアプローチの可能性について学びます。
		福田あかり	発達障害と神経炎症 発達障害は、DSM-V（米精神医学会による精神障害の診断・統計マニュアル第5版）の診断基準から、神経発達症に含まれます。主に、①自閉スペクトラム症・②ADHD（注意欠陥多動性障害）・③LD（学習障害）、④知的障害、⑤発達性協調運動障害があります。本講義では、それぞれの特徴や関わりの手立てについて学びます。
2	頭のタッチセラピー	吉田優也	発達障害のアプローチの一つに、頭蓋テクニックがあります。本講義では簡単に危険の少ない頭蓋テクニック『頭のタッチセラピー』を学びます。 ※『頭のタッチセラピー』講座を開催するための必須講義です。
3	脳と反射	吉田優也	脳の発達過程と原始反射 より確かな徒手介入のためには評価が必要です。本講義では①運動発達理論、②頭尾の法則、③神経成熟理論、④姿勢反射について学びます。
		吉田優也	原始反射と評価Ⅰ 姿勢反射の出現とその役割を抽象化したコンセプトとして、『原始反射統合』があります。原始反射の評価は簡便であり、クライアントへの説明・教育に役立つことから、発達へのアプローチに欠かせません。また、三大原始反射（①恐怖麻痺反射、②モロー反射、③緊張性迷路反射）を学びます。
		吉田優也	原始反射と評価Ⅱ ①脊髄ガラント反射、②探索・吸嚙反射、③手掌把握反射、④足底反射（パピンスキー反射・プランター反射）、⑤非対称性緊張性頸反射、⑥対称性緊張性頸反射について学びます。
		吉田優也	左右の脳半球の動き 論理的な左脳、創造的な右脳などと言われるように、左右の脳にはそれぞれ特徴的な動きがあります。本講座では、左右脳の動きと検査法を学びます。
4	栄養	石原英和	栄養療法の基礎 発達障害は脳機能の正常化がキーポイントとなります。身体は『食べた物』からできていますから、脳も食べ物からできており、摂取した栄養素は脳の機能に影響を与えます。そして、近年の研究で『腸と脳』との関係が分かってきました。本講義では『脳と栄養』『脳と腸』の関係について解説します。また脳の機能改善において栄養が果たす役割について学びます。
		石原英和	栄養療法の応用 発達障害のお子さんによく見られる多動性・集中困難や、痙攣や気分の落ち込みなどの不安定な心理・感情の原因の一つに『低血糖』があります。低血糖の背景には炎症や腸内環境の悪化があります。本講義では脳の機能に影響をもたらす「低血糖、腸内環境、炎症」についての栄養療法を学びます。
5	ビジョン	松本康宏	ビジョン・トレーニングの基礎 発達障害のお子さんによく見られる多動性や集中困難、運動面の不器用さ、読み書きの学習困難等について理解するために、視機能の理解は必須です。本講義では、①眼の構造、発達、②弱視、斜視、斜位、③眼位と姿勢、重心、④眼の見方、⑤ビジョントレーニング、⑥ホームエクササイズを学びます。治療の幅が大きく広がるでしょう。
6	ビジョン	松本康宏	ビジョン・トレーニングの基礎 発達障害のお子さんによく見られる多動性や集中困難、運動面の不器用さ、読み書きの学習困難等について理解するために、視機能の理解は必須です。本講義では、①眼の構造、発達、②弱視、斜視、斜位、③眼位と姿勢、重心、④眼の見方、⑤ビジョントレーニング、⑥ホームエクササイズを学びます。治療の幅が大きく広がるでしょう。
7	心理	福田あかり	ポリヴェーガル理論、発達性トラウマ（愛着障害含）・PTSD ポリヴェーガル理論では、心の悩みについて自律神経系の働きから紐解いています。疑似発達障害のおさんは、育ちや親子の関わりから自律神経系の発達が育ちににくい様子が見られます。本講義では、①ポリヴェーガル理論、②発達性トラウマ（愛着障害含）とPTSDについて基礎的内容を学びます。